

令和5年度 学校教育自己診断の結果および分析・考察について

I. 診断結果について

(1) アンケート回収状況

学年(生徒数)	回答数		
	生徒(回収率)	保護者(回収率)	教員
1年(30)	28(93%)	26(86%)	40(100%)
2年(30)	29(96%)	24(80%)	
3年(32)	30(93%)	29(90%)	
共生(14)	12(85%)	10(71%)	

(2) 診断結果(資料)について

<p>別紙一覧</p> <p>資料②-1 生徒(むらの・全学年)</p> <p>資料②-2 生徒(むらの 7期生_3年生)</p> <p>資料②-3 生徒(むらの 8期生_2年生)</p> <p>資料②-4 生徒(むらの 9期生_1年生)</p> <p>資料②-5 保護者(むらの)</p> <p>資料②-6 教員(むらの)</p> <p>資料②-7 生徒(共生)</p> <p>資料②-8 保護者(共生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 肯定率の高い順で表記 肯定…①あてはまる ②ややあてはまる 否定…③ややあてはまらない ④あてはまらない ● 前年比±10以上の項目に矢印(↗)で表記 ● 参考として、前年度の肯定率を記載 ● 左下に<分析・考察>を表記
---	---

2. 診断結果の分析・考察方法について

(1) 分析、考察のポイント

以下の2点を中心に分析する

- I. 10以上の増減があった項目について
- II. 肯定的な結果が70%未満の項目について
- III. その他

★ 学校経営計画に関わる項目について

(2) 分析、考察の方法

・分析結果を管理職、教職員に共有し、意見集約を行ったうえで学校評価委員会が取りまとめる。

(3) 分析・考察

<アンケートの回収率について>

- ① 生徒については、むらの・共生とも各学年で実施日を設定して一斉に実施した。
→長欠などの事情によりアンケート回答が困難な生徒を除いて、ほぼ全員回収できた。
- ② 教員については、100%をめざすため回答送信の有無が確認できる回収方法に改めた。
結果、R4:98%→R5:100%となった。
- ③ 保護者については、R3:78%→R4:96%→R5:84%という結果となった。
 - ・「実施のお願いプリント」に Google フォームの回答状況(家庭数)が把握できるように、固有のQRコードを付けた。また、「回答済連絡票」を提出いただき、家庭別にも回答状況を把握しながら未提出の家庭には連絡帳を通じて再度協力依頼を行った。
 - ・「操作手順プリント」として Google フォームの回答方法を図解でわかりやすく示した。
 - ・生徒同様の事情によりアンケートの回答が難しい家庭が昨年度より若干増えたことと、共生保護者の回答率が下がったことが、12%減につながったのではないかと推測する。

<所属、項目ごとの分析・考察について>

→資料①～⑧参照:令和5年度学校教育自己診断 診断結果および分析・考察について

	生徒	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比(±10)		前年度肯定 <参考>	備考	検証
9	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	61	22	4	0	0	95.4%	4.6%	-	-0.4	95.8%		
13	★先生は、将来の進路や職業について自分に合ったアドバイスをくれる。	53	30	4	0	0	95.4%	4.6%	-	-1.4	96.8%		
11	地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかを学ぶ機会がある。	58	24	5	0	0	94.3%	5.7%	-	-0.5	94.7%		
12	★本校には達成感を味わうことができる活動がある。(職場実習、オープンスクール、学校祭、スマイル&ミュージックなど)	54	28	4	1	0	94.3%	5.7%	-	3.7	90.5%		★93%[91%]
14	★先生は授業や行事でiPadを使って、わかりやすい学習をしてくれている。	61	20	4	2	0	93.1%	6.9%	-	1.5	91.6%		★95%[92%]
2	★本校の行事は楽しい。(学校祭、校外学習、宿泊研修、スマイル&ミュージック、ミニ体育祭など)	50	29	4	4	0	90.8%	9.2%	-	2.4	88.4%		★90%[88%]
6	学校生活についての先生の指導は理解できる。	41	38	7	1	0	90.8%	9.2%	-	-3.9	94.7%		
8	先生は私たちのことを考えてくれている。	55	24	6	2	0	90.8%	9.2%	-	-2.9	93.7%		
4	★先生は、自分のことをよく理解してくれている。	46	32	6	2	1	89.7%	9.2%	-	1.2	88.4%		★92%[88%]
7	先生はいじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。	52	25	6	4	0	88.5%	11.5%	-	0.1	88.4%		
5	相談できる先生がいる。	43	31	8	5	0	85.1%	14.9%	-	7.2	77.9%		
1	学校へ行くのが楽しい。	35	38	8	6	0	83.9%	16.1%	-	3.9	80.0%		
3	将来の進路や生き方について考える時間がある。	43	29	14	0	1	82.8%	16.1%	-	-5.7	88.4%		
10	★自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている。	27	45	11	4	0	82.8%	17.2%	↑	10.1	72.6%		★80%[73%]

・肯定率の高い順で表記
 肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
 否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
 ・前年度比±10%以上の項目に矢印(↑)を表記
 ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】
 ・以下の点を中心に分析・考察
 I 10ポイント以上の増減(肯定率)があった項目について
 II 肯定率が70%未満の項目について
 III その他
 <分析・考察>
 I 増:項目10
 II 該当なし
 III 全体について
 ・全体的に肯定率は高く、日々の取組みの成果が一定現れている。次年度もこの水準を維持しつつ、肯定率の下位の項目を中心に引き続き日々の取組みに尽力していく。
 ・昨年度、課題としてあがった項目10については、三者懇談やハニカム面談(生徒と担任の面談)にて目標を確実に生徒と共有したうえで学校生活をすすめていけるよう再徹底するなど、工夫できる方法を考えるように尽力した。その結果、全ての項目において80%を超えることができた。
 ・生徒と教員の関係性に関わる項目4、5、6、7、8については、少数ではあるが否定的な回答があるということを真摯に受け止める必要がある。

	7期生徒	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比(±10)		前年度肯定 <参考>	備考	検証
13	★先生は、将来の進路や職業について自分に合ったアドバイスをくれる。	19	10	1	0	0	96.7%	3.3%	-	-0.1	96.8%		
14	★先生は授業や行事でiPadを使って、わかりやすい学習をしてくれている。	23	6	0	1	0	96.7%	3.3%	-	9.6	87.1%		★95%[92%]
8	先生は私たちのことを考えてくれている。	21	7	1	1	0	93.3%	6.7%	-	3.0	90.3%		
12	★本校には達成感を味わうことができる活動がある。(職場実習、オープンスクール、学校祭、スマイル&ミュージックなど)	19	9	1	1	0	93.3%	6.7%	-	-0.2	93.5%		★93%[91%]
3	将来の進路や生き方について考える時間がある。	20	7	3	0	0	90.0%	10.0%	-	6.1	83.9%		
4	★先生は、自分のことをよく理解してくれている。	18	9	1	1	1	90.0%	6.7%	-	2.9	87.1%		★92%[88%]
9	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	23	4	3	0	0	90.0%	10.0%	-	-0.3	90.3%		
11	地震や火災などがおこった場合、どうしたらよいかを学ぶ機会がある。	21	6	3	0	0	90.0%	10.0%	-	-6.8	96.8%		
6	学校生活についての先生の指導は理解できる。	15	11	3	1	0	86.7%	13.3%	△	-13.3	100.0%		・3年生になると就労につなげるために指導される機会も増えるため。 ・3年生になると担任も厳しくなるので指導も増えるため。 ・昨年度100%より13.3%減での86.7%は妥当な数値。 ・単純に大人になったため。 ・項目「5」の83.3%より数値が高いので問題ない。 ・生徒指導の観点から考えると、別室指導の数は減っている。 しかし、3年生になり現場実習も始まった中で求められる力が多くなったため、指導の意図が理解できていない部分もあり、この結果になったのではないかと考える。(生徒支援部)
7	先生はいじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。	19	7	2	2	0	86.7%	13.3%	-	2.8	83.9%		
10	★自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている。	10	16	3	1	0	86.7%	13.3%	-	-0.4	87.1%		★80%[73%]
2	本校の行事は楽しい。(学校祭、校外学習、宿泊研修、スマイル&ミュージック、ミニ体育祭など)	17	8	2	3	0	83.3%	16.7%	-	2.7	80.6%		★90%[88%]
5	相談できる先生がいる。	15	10	2	3	0	83.3%	16.7%	△	12.4	71.0%		・3年生への持ち上がりの教員も多く、関係性ができたため。 ・担任の先生が3人とも持ち上がったことが良い影響を与えているように思う。(生徒支援部)
1	学校へ行くのが楽しい。	9	15	2	4	0	80.0%	20.0%	-	2.6	77.4%		

・肯定率の高い順で表記
肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
・前年度比±10%以上の項目に矢印(△)を表記
・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】
・以下の点を中心に分析・考察
I 10ポイント以上の増減(肯定率)があった項目について
II 肯定率が70%未満の項目について
III その他

〈分析・考察〉
I 増:項目5 減:項目6
II 該当なし
III 全体として
全体的に肯定率は高い。項目6については、進路実現に直接的に取り組む一年間なので生徒の葛藤や心境を考えると昨年度の100%からの13.3%減は現実的な結果が現れているのではないかと捉えている。一方で項目5が12.4%増となっており、生徒への指導・支援は適切にできていると捉えている。

	8期生徒	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比(±10)		前年度肯定 <参考>	備考	検証
9	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	17	12	0	0	0	100.0%	0.0%	-	0.0	100.0%		
11	地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかを学ぶ機会がある。	16	13	0	0	0	100.0%	0.0%	-	6.3	93.8%		
2	本校の行事は楽しい。(学校祭、校外学習、宿泊研修、スマイル&ミュージック、ミニ体育祭など)	14	14	1	0	0	96.6%	3.4%	-	5.9	90.6%		★90%[88%]
12	★本校には達成感を味わうことができる活動がある。(農場実習、オープンスクール、学校祭、スマイル&ミュージックなど)	15	13	1	0	0	96.6%	3.4%	-	9.1	0.875		★93%[91%]
13	★先生は、将来の進路や職業について自分に合ったアドバイスをくれる。	17	11	1	0	0	96.6%	3.4%	-	-0.3	96.9%		
4	★先生は、自分のことをよく理解してくれている。	13	14	2	0	0	93.1%	6.9%	-	2.5	90.6%		★92%[88%]
6	学校生活についての先生の指導は理解できる。	11	16	2	0	0	93.1%	6.9%	-	2.5	90.6%		
10	★自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている。	8	18	2	1	0	89.7%	10.3%	↑	24.0	65.6%		★80%[73%] ・昨年度の反省を踏まえ、懇談等で本人に周知を図ったためではないか。 ・ハニカム面談で意識的に話題に出している。(生徒支援部)
14	★先生は授業や行事でiPadを使って、わかりやすい学習をしてくれている。	15	11	3	0	0	89.7%	10.3%	↓	-10.3	100.0%		★95%[92%] ・昨年度のアンケートはiPad使用時期と重なっているためではないか。昨年度と比べてもタブレット端末の仕様頻度については増えている。 ・iPadからChromebookに変更する間際だったことも影響しているかもしれない。(生徒支援部)
5	相談できる先生がいる。	14	11	4	0	0	86.2%	13.8%	-	-1.3	87.5%		
7	先生はいじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。	13	12	3	1	0	86.2%	13.8%	-	-4.4	90.6%		
8	先生は私たちのことを考えてくれている。	12	13	3	1	0	86.2%	13.8%	↓	-10.7	96.9%		・3分の1ほど学年団が代わり、担任も3分の2代わっていることもあるのではないか。今年度は友人同士のトラブルが増えたがその都度適切に対応してきたと思っている。 ・昨年度よりも女子生徒の人間関係が複雑になっているのが影響しているかもしれない。(生徒支援部)
1	学校へ行くのが楽しい。	9	15	3	2	0	82.8%	17.2%	-	-1.6	84.4%		
3	将来の進路や生き方について考える時間がある。	13	11	5	0	0	82.8%	17.2%	-	-7.9	90.6%		

・肯定率の高い順で表記
 肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
 否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
 ・前年度比±10%以上の項目に矢印(↑)を表記
 ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】
 ・以下の点を中心に分析・考察
 I 10ポイント以上の増減(肯定率)があった項目について
 II 肯定率が70%未満の項目について
 III その他
 <分析・考察>
 ① 増:項目10 減:項目8、14
 ② 該当なし
 ③ 全体として
 全体的に肯定率が高く、項目9においては100%の結果が得られている。増減のあった項目についても、上記「検証」のとおり、日々の学校生活の中で起こり得る範囲の結果と捉えている。この水準を維持しつつ、次年度の最終学年の指導・支援においても、各生徒に適切に寄り添いながら引き続き肯定率上昇につながる取組みを探っていきたい。

	9期生徒	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比(±10)		前年度肯定 <参考>	備考	検証
9	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	21	6	1	0	0	96.4%	3.6%	-	-	-		・4月からの学習活動を通しての結果と考える。
2	本校の行事は楽しい。(学校祭、校外学習、宿泊研修、スマイル&ミュージック、ミニ体育祭など)	19	7	1	1	0	92.9%	7.1%	-	-	-		★90%[88%]
6	学校生活についての先生の指導は理解できる。	15	11	2	0	0	92.9%	7.1%	-	-	-		
7	先生はいじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。	20	6	1	1	0	92.9%	7.1%	-	-	-		
8	先生は私たちのことを考えてくれている。	22	4	2	0	0	92.9%	7.1%	-	-	-		
11	地震や火災などがおこった場合、どうしたらよいかを学ぶ機会がある。	21	5	2	0	0	92.9%	7.1%	-	-	-		
12	★本校には達成感を味わうことができる活動がある。(職場実習、オープンスタール、学校祭、スマイル&ミュージックなど)	20	6	2	0	0	92.9%	7.1%	-	-	-		★93%[91%]
13	★先生は、将来の進路や職業について自分に合ったアドバイスをくれる。	17	9	2	0	0	92.9%	7.1%	-	-	-		
14	★先生は授業や行事でiPadを使って、わかりやすい学習をしている。	23	3	1	1	0	92.9%	7.1%	-	-	-		★95%[92%]
1	学校へ行くのが楽しい。	17	8	3	0	0	89.3%	10.7%	-	-	-		
4	★先生は、自分のことをよく理解してくれている。	15	9	3	1	0	85.7%	14.3%	-	-	-		★92%[88%]
5	相談できる先生がいる。	14	10	2	2	0	85.7%	14.3%	-	-	-		
3	将来の進路や生き方について考える時間がある。	10	11	6	0	1	75.0%	21.4%	-	-	-		・「進路」と「将来の生き方」について結びついていないのではと考える。
10	★自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている。	9	11	6	2	0	71.4%	28.6%	-	-	-		★80%[73%] ・懇談やハニカム面談などを通じて再度確認していく。 ・ハニカム面談では1人につき30分くらいの時間を確保し、目標は丁寧に説明している。しかし、「教育支援計画」「指導計画」の存在を理解していない生徒がいるように思う。(生徒支援部)

・肯定率の高い順で表記
肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない

・前年度比±10%以上の項目に矢印(↗)を表記

・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】

・以下の点を中心に分析・考察
Ⅰ 10ポイント以上の増減(肯定率)があった項目について
Ⅱ 肯定率が70%未満の項目について
Ⅲ その他

<分析・考察>
① 昨年度比でできないため該当なし
② 該当なし
③ 全体として

・全体的に肯定率は高い。項目9においては、4月からの学習活動を通しての結果と考える。項目3においては、新入学年ということもあり「進路」と「将来の生き方」について、まだまだ結びついていない生徒が多いのではないかと考える。今後、進級していく中で、進路実現に向けた意識を高めていく取り組みを探っていきたい。また、項目10は、三者懇談やハニカム面談などを通じて再度確認していきたい。

令和5年度学校教育自己診断 診断結果

保護者(むらの)

回答数 79

	保護者	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比(±10)		前年度肯定 <参考>	備考	検証
3	★学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	57	20	1	1	0	97.5%	2.5%	-	-0.3	97.7%		★98%以上を維持[98%]
8	学校は子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。	58	19	1	1	0	97.5%	2.5%	-	-0.3	97.7%		
5	学校の生徒指導の方針に共感できる。	46	29	4	0	0	94.9%	5.1%	-	0.6	94.3%		
6	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	46	29	2	1	1	94.9%	3.8%	-	2.9	92.0%		
10	学校は、教育情報について提供の努力をしている。	49	25	3	2	0	93.7%	6.3%	-	-4.1	97.7%		
4	★学校は、子どもの障がいについて、よく理解している。	53	20	4	1	1	92.4%	6.3%	-	-3.0	95.5%		★96%以上を維持[96%]
7	学校は日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している。	46	26	5	1	1	91.1%	7.6%	-	-3.2	94.3%		
2	子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。	30	41	7	1	0	89.9%	10.1%	-	0.1	89.8%		
9	学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。	49	20	4	6	0	87.3%	12.7%	-	-3.6	90.9%		
1	子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	38	30	10	1	0	86.1%	13.9%	-	-2.6	88.6%		

・肯定率の高い順で表記
 肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
 否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
 ・前年度比±10%以上の項目に矢印(↗)を表記
 ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】
 ・以下の点を中心に分析・考察
 I 10ポイント以上の増減(肯定率)があった項目について
 II 肯定率が70%未満の項目について
 III その他
 <分析・考察>
 I 該当なし
 II 該当なし
 III 全体について
 ・全体的に肯定率は高い数値を維持している。本校の教育活動へのご理解をいただけているとともに、生徒たちの日々の学校生活の中における成長を実感いただけているのではないかと考える。
 ・次年度以降もこの水準を維持していけるように取組んでいく一方で、肯定率の低位項目や否定的な回答については、学校全体として改善できるよう引き続き取組んでいく必要がある。

	教員	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比(±10)		前年度肯定<参考>	備考	検証
1	本校では、学校祭・校外学習・宿泊研修などの学校行事は、生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫を行っている。	27	13	0	0	0	100.0%	0.0%	-	0.0	100.0%		
3	★私は、主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている。	25	13	2	0	0	95.0%	5.0%	-	5.0	90.0%		★95%[90%]
2	★私は、生徒の特性や実態をふまえ教員間で授業の内容や方法等について情報交換や検討する機会を持っている。	24	13	2	1	0	92.5%	7.5%	-	5.0	87.5%		★92%[88%]
5	私は、カウンセリングマインドをもって生徒の相談に快く応じている。	22	15	3	0	0	92.5%	7.5%	-	-5.0	97.5%		
6	本校では、いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。	26	11	2	0	1	92.5%	5.0%	-	-7.5	100.0%		
7	★本校では、生徒の人権を尊重して日常の教育活動を行っている。	15	22	3	0	0	92.5%	7.5%	-	0.0	92.5%		★95%[93%]
10	本校は、教育活動に必要な情報について生徒・保護者や地域への周知に努めている。	19	18	3	0	0	92.5%	7.5%	-	2.5	90.0%		
4	本校では、生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。	24	12	4	0	0	90.0%	10.0%	↘	-10.0	100.0%		
9	本校では、外部への情報提供の手段として学校のホームページが活用されている。	16	20	4	0	0	90.0%	10.0%	-	2.5	87.5%		
12	本校では、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画にいかしている。	12	23	5	0	0	87.5%	12.5%	-	7.5	80.0%		
8	教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成において、教務部を中心とする現行の体制は役立っている。	14	19	6	1	0	82.5%	17.5%	↘	-10.0	92.5%		年度当初の業務伝達方法の改善策を検討する。(教務部)
11	★本校では、初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている。	5	21	9	4	1	65.0%	32.5%	-	-7.5	72.5%		★75%[73%] 目立って取り組まれている「何か」が無いからではないか。 育成・支援体制について計画などを整理、説明する必要がある。

・肯定率の高い順で表記
 肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
 否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
 ・前年度比±10%以上の項目に矢印(↘)を表記
 ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】
 ・以下の点を中心に分析・考察
 I 10ポイント以上の増減(肯定率)があった項目について
 II 肯定率が70%未満の項目について
 III その他
 <分析・考察>
 I 減:項目4、項目8
 II 項目11
 III 全体について
 ・全体的に肯定率は高いが、「個々の生徒に応じた進路選択についてのきめ細かい指導」の項目が減になっていることについては、高等支援学校の在り方について今後、教員間で議論し、共通認識を深めていきたい。
 ・個別の指導計画等の実務(運用)については、次年度より組織体制を見直し、特化した「支援教育部」を設ける予定である。
 ・初任者等に関わらず、すべての教員を対象とした専門性向上のための研修や実務の工夫に努め、連携と協働ができる組織(チーム)を再構築していきたい。

令和5年度学校教育自己診断 診断結果

生徒(共生)

回答数 12

	共生生徒	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比(±10)		前年度肯定<参考>	備考	検証
									↑	↓			
2	「むらの」の行事は楽しい。(校外学習、ミニ体育祭など)	6	6	0	0	0	100.0%	0.0%	↑	40.0	60.0%		今年度のむらのの行事が共生推進教室の生徒たちのニーズに合ったことが肯定率の上だった理由と考える。
11	「むらの」では地震や火災などがおこった場合、どうしたらよいかを学ぶ機会がある。	6	6	0	0	0	100.0%	0.0%	↑	13.3	86.7%		昨年同様に火曜日に実施し、回答した生徒が欠席せずに参加していることが肯定率の上だった理由と考える。
4	「むらの」の先生は、自分のことをよく理解してくれている。	7	4	0	0	1	91.7%	0.0%	↑	18.3	73.3%		生徒たちが楽しく過ごしていることに連動しているのではないかと考える。
5	「むらの」には、相談できる先生がいる。	5	6	1	0	0	91.7%	8.3%	↑	18.3	73.3%		今年度の本校担任3名+LS1名のうち4名のうち3名が新しいメンバーに代わり、生徒たちとの関係づくりにもめたことが理由と考える。
6	学校生活について「むらの」の先生の指導は理解できる。	3	8	0	0	1	91.7%	0.0%	↑	18.3	73.3%		両設置校生徒の服装が乱れたときに設置校・本校で連携して服装の着こなしについての指導を実施した時期と自己診断をした時期が近く、生徒たちが覚えていたことが数値の増えた理由と考える。
7	「むらの」の先生ははじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。	5	6	1	0	0	91.7%	8.3%	↑	11.7	80.0%		生徒間のトラブルなく、本校で学校生活を送っていることが理由と考える。
8	「むらの」の先生は私たちのことを考えてくれている。	7	4	0	1	0	91.7%	8.3%	-	5.0	86.7%		
9	「むらの」では、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	8	3	1	0	0	91.7%	8.3%	↑	25.0	66.7%		命の大切さと社会のルールを学習した時期と自己診断をした時期が近く、生徒たちが覚えていたことが数値の増えた理由と考える。
10	★「むらの」での自分の個別の指導計画の目標を知っている。	5	6	0	1	0	91.7%	8.3%	↑	11.7	80.0%		設置校・本校の教員が生徒たちに話しをしていることもあるが、個別の指導計画そのものが何であるかを理解した生徒たちが増えたことが大きな理由と考える。
1	火曜日に「むらの」へ行くのが楽しい。	4	6	2	0	0	83.3%	16.7%	↑	36.7	46.7%		設置校に登校できずにむらのに登校している生徒や設置校のクラスや授業に入れない生徒が数名いること、週1で本校や設置校の生徒との交流を楽しみにしている生徒たちが多くいたことが理由と考えられる。
3	「むらの」では、将来の進路や生き方について考える時間がある。	4	6	1	1	0	83.3%	16.7%	↑	30.0	53.3%		昨年から時間がかかったが、職場実習や本校の実習科目を通して将来や生き方について考えることができるようになってきたことが理由と考える。

・肯定率の高い順で表記
 肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
 否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
 ・前年度比±10%以上の項目に矢印(↑)を表記
 ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】
 ・以下の点を中心に分析・考察
 I 10ポイント以上の増減(肯定率)があった項目について
 II 肯定率が70%未満の項目について
 III その他
 <分析・考察>
 ① 増:項目1、2、3、4、5、6、7、9、10、11
 ② 該当なし
 ③ 全体として
 ・すべての項目が大幅に前年比増となり、昨年度の課題であった「全般的に肯定率が低い」が改善された。ただし、もともと母数が少なく、少数者の回答内容によって全体の肯定率が大きく増減してしまう傾向にあることは、引き続き認識しておく必要がある。
 ・共生生徒のスクーリングの在り方や設置校との連携については、府内高等支援学校の大きな枠組みとしても難しさを感じている。そのような状況下で本校なりに、どのように考え、実践していくのかを試行錯誤し、担当者を中心に尽力している結果が良い結果に結びついたと捉えている。引き続き、スクーリングの在り方や本校生徒の交流(共に学ぶ)について考えていきたい。

令和5年度学校教育自己診断 診断結果

保護者(共生)

回答数 10

	共生保護者	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比(+10)		前年度肯定 <参考>	備考	検証
									↑	↓			
5	「むらの」は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	5	5	0	0	0	100.0%	0.0%	↑	26.7	73.3%		本校の教員と設置校の教員と連携を行い、時には本校の教員が直接、保護者に連絡するなどの対応をしていることが保護者に安心感を与え、数値が上がったと考えられる。
7	「むらの」は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。	4	6	0	0	0	100.0%	0.0%	↑	13.3	86.7%		本校の教員と保護者との普段のかかわりが安心感を与え、数値が上がったと考えられる。特に社会のルールを守る態度については入学式や保護者懇談時に話をしていることが大きいと考えられる。
2	「むらの」の校外学習などの学校行事は、子どもにとって魅力あるものになっている。	2	6	1	1	0	80.0%	20.0%	-	0.0	80.0%		
6	「むらの」は日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している。	4	4	2	0	0	80.0%	20.0%	-	-6.7	86.7%		
9	「むらの」は、教育情報について提供の努力をしている。	4	4	2	0	0	80.0%	20.0%	↓	-13.3	93.3%		個別の指導計画の情報以外に講演会なども保護者案内で周知しているが保護者の参加率が低く、他に教育情報を伝える機会や手段がないことが原因の一つと考えられる。
10	「むらの」は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	4	4	1	1	0	80.0%	20.0%	↓	-13.3	93.3%		設置校の教員が主で職場実習の巡回を行っていることで、本校の教員が進路や職業についての取り組み(本校教員も職場実習に巡回していることなど)が分かりにくくなっていることも原因の一つと考える。
4	「むらの」の生徒指導の方針に共感できる。	4	3	2	1	0	70.0%	30.0%	↓	-16.7	86.7%		保護者(7)で社会ルールを守る態度を養おうとしていると数値は上がっている。本校と設置校の生徒指導の方針の違いがあるが、本校の生徒指導が社会ルールを守るうえで必要であることにつながっていることを理解してもらうことができれば数値が上がると考える。
8	「むらの」の授業参観や学校行事に参加したことがある。	5	2	0	3	0	70.0%	30.0%	↑	10.0	60.0%		設置校の担任をはじめ設置校の教員が本校の行事などの参加を促していることが大きいと考える。
3	子どもは「むらの」の授業がわかりやすく楽しいと言っている。	2	4	4	0	0	60.0%	40.0%	-	-6.7	66.7%		
1	子どもは「むらの」へ行くのを楽しみにしている。	2	2	4	2	0	40.0%	60.0%	↓	-26.7	66.7%		生徒(共生)2では生徒は楽しみにしているが、保護者には生徒たちの様子があまり伝わっていないことが数値の低さに表れているのでないかと考える。子どもの様子が伝われば数値が上がると予想される。

・肯定率の高い順で表記
 肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
 否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
 ・前年度比±10%以上の項目に矢印(↑)を表記
 ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】
 ・以下の点を中心に分析・考察
 I 10ポイント以上の増減(肯定率)があった項目について
 II 肯定率が70%未満の項目について
 III その他
 <分析・考察>
 I 増:項目5、7、8 減:項目1、4、9、10
 II 項目1、項目3
 III 全体として
 ・各項目についての分析は、上記「検証」に記述したとおりである。ただ、一昨年度はアンケートの回答率が33%(5名)、昨年度は100%(15名)、今年度は71%(10名)であり、母数が少ない統計だけに前年度と比較することは難しい面もある。ただ、肯定率の高い項目がある中で肯定率の下位項目も一定数あるため、今後も肯定率向上につながる取組みについて探っていきたい。